

## 【総説】

## ロシア沿岸警備隊（その3）

小川 哲也

## はじめに

ソ連邦崩壊後のロシア連邦では、ソ連邦の枠組みを残して、新環境に対応すべく CIS 諸国の外縁国境を第一次国境として多国間及び二国間協力によりロシア連邦国境警備庁（以下、FPS）が参加した形での合同警備等を行っていた。しかし、CIS 諸国の独立志向が高まるにつれ、外縁国境の警備から退き、第二次国境である本来の自国国境のインフラ整備及びその警備体制の構築を迅速に行わざる得なくなるとともに、隣国との協調を図りながらも、緩衝地帯であるべき隣国の政府がロシアから離反するのを避けるべく然るべき諜報活動を行わねばならなくなった。

国境全体の状況は、西側諸国との国境は状況が安定しており、紛争の種となっていた中国国境も国境線画定により安定するなど、冷戦時代の鉄のカーテンに代表されるようなトータル型の軍事的警備の必要性はなくなった。しかし、ソ連邦崩壊、冷戦構造の終焉による世界情勢の不安定化によって世界各地で民族紛争やテロが多発し始め、ロシアでもチェチェン共和国及びダゲスタン国境を抱える北コーカス地方の国境では、ソ連邦時代とは打って変わって民族紛争やテロが頻発し、軍事的な武装対処を余儀なくされた。

また、世界経済のグローバル化により国境を開き、国境での人と物の自由な動きを促進せねばならない一方で、特に CIS 諸国との未整備の国境での武器及び麻薬を含めた各種物品の密輸、密入出国、並びにロシア水域での大掛かりな密漁及び海産物の違法輸出といった越境犯罪が蔓延し、国境インフラの整備とともにその取締を強化せざる得なくなった。

そのため、こうした状況に対応した新しい国境政策、国境警備体制及び国境整備計画を策定し、これを実現する改革が始まった<sup>1)</sup>。この改革の主要な柱は、未整備国境の整備及び老朽国境の近代化を目的とする「ロシア連邦

国境」連邦特別計画 (以下、国境特別計画) の実現と、国境安全保障上の脅威であるテロ及び越境犯罪の対策並びに国家安全保障上の観点からの CIS 諸国など隣接国に対する諜報の権限及び機能を全体として連邦保安庁 (以下、FSB) に委ね、その組織的最適化を図ることによる警備の強化である。

この FSB の組織的最適化として、大統領付属連邦政府通信情報庁 (以下、FAGCI) 及び連邦国境警備庁 (以下、FPS) が廃止され、前者の機能の一部及び後者の機能の全てが FSB に移管され、前者は FSB の直轄組織に、後者は、一定の組織的一体性は保持したが、国境活動を担う国境総局という FSB の一部局とされた<sup>2)</sup>。その後の FSB 国境総局の組織的最適化の柱は、①FSB の国境現場機関としてその勢力の現場への集中、②国境安全保障上の脅威が軍事的な脅威からテロ及び越境犯罪等の非軍事的な脅威に変質したことに伴い、軍との連携を想定した軍事的警備から FSB の他の部局及び他の法保護機関との連携を想定した機動 (諜報、防諜、捜査) 的警備への移行、並びに警備装備の近代化、③開かれた国境として西側並みの短時間の入出国・通関手続を実現するための国境検問所の近代化である。

もう少し具体的には、①FSB と競合する機能組織の FSB 本体への統合及びこれに伴う国境総局中央機関のスリム化並びに地方機関への分権、②FSB の他の部局及び他の法保護機関との相互活動強化の必要性から地方機関の組織区分を軍管区に準じた広域管区制から FSB 及び内務省等の他の法保護機関と同じ行政単位区分制への変更、③北コーカサス地方でのテロ対策及び民族紛争対策としての軍事的な武装警備、その他の地域での越境犯罪対策としての機動的警備といった地域事情に応じた地域別の警備体制、④国家的課題である軍人定員の削減並びに新警備体制及び近代装備に対応できる優秀な人材の確保という観点からの他の省庁に先んじた徴兵制の廃止、契約軍人制の導入及び処遇改善、並びに中等・高等専門教育施設の充実による職業的専門家集団組織への移行、⑤最大限の自動化及び省力化による人員削減と表裏一体となった近代的な国境警備保安モニタリングシステムの導入、連邦漁業庁の漁業モニタリングシステムなど関係省庁とのその情報システム利用協定の締結、関係諸国との国際的情報交換システムの構築、並びにこれら内外情報を統合活用するオンラインネットワーク指揮管理システム (シチュエーションセンターシステム) の創設、⑥近代的な国境警備保

安モタリグシステムの導入と一体となった特殊部隊及び遊撃部隊による事案発生時の対応という省力型移動警備体制への移行である。

本稿は、こうしたFSB 国境総局の組織的最適化の中で生まれた沿岸警備隊についてその組織的実体を明らかにしようとするものである。

## 1 FSB 国境総局の組織的最適化と沿岸警備隊の創設

FPS を廃止し、FSB に国境総局を設置することを定めた 2003 年 3 月 11 日付け第 308 号大統領令から 4 ヶ月後の 2003 年 7 月、最初の国境総局中央人事がプーチン大統領によって行われた。FSB 第一次長・国境総局長ウラジーミル・プロトチェフ陸員大將はその地位を保持し、彼の下に 6 名の新次長が置かれた<sup>3)</sup>。

地方機関改革では、これまでの 10 の FPS 地域局に代わって、2004 年 7 月に行政単位区分原理に基づき 7 つの連邦管区に地域国境局が設置されるとともに<sup>4)</sup>、2004 年 8 月頃から設置が報道され始めていたが<sup>5)</sup>、国境エリア通行証交付関係 FSB 行政執務規則についての 2008 年 11 月 19 日付け第 572 号 FSB 令付属書 (2009 年 7 月 27 日付け改正規定) によれば、この時点で連邦主体に 32 の国境局及び海洋方面に 3 つの沿岸警備国境局 (黒海・アゾフ、カリフ及び北東沿岸警備国境局) (以下、国境局) が設置されている。

### (1) 地方分権と監督強化

地方国境機関改革の重要な柱の一つは、勢力の配分比率が国境現場 80%、管理・補給部門 20% というヨーロッパ並みの国境現場への勢力集中である<sup>6)</sup>。このために、これまでの食料品に至るまでの中央調達を見直し、中央調達を 15%、基本的に装備・弾薬に限り、補給品の 85% を現場調達にし、中央調達品も各国境局に配分される資金の限度内でその要求物品を品目リストに従って中央発注するなど、経営・補給・資金管理といった権限を大幅に国境局に委ね、不要となった中央調達組織を廃止した<sup>7)</sup>。国境局は、こうした財政的梃子により国境警備に必要な勢力及び資機材の整備及び運用に一定の「ハンド」を持ち、国境現場の警備業務に自立的に対処できる権限と責任を持つ地方国境機関となっている<sup>8)</sup>。

他方、国境局に配分される資金及びその購入資機材の運用及び消費に対して、汚職防止及び予算節約もあるが、中央からの監督が強化され<sup>9)</sup>、国

境局長は毎年モスクワで予算要求説明を行い、その予算を然るべく確保をせねばならなくなっている<sup>10)</sup>。

これまでの改革により、2010年5月の国境総局次長ニコライ・ルバキン陸員中将の発言によれば<sup>11)</sup>、改革の暫定調整組織であった各連邦管区の地域国境局は南方連邦管区を除いて全て廃止され、現在の組織体制は「国境総局－国境局」というFSB本体組織と同じ2環体制となり、職員総数の70%が国境を直接警備するという勢力配分の最適化が達成され、2011年10月のプロチーフ国境総局長の発言によれば<sup>12)</sup>、不要な部隊は編成が解かれ、部隊数は半減し、將軍の数も半数以下となり、現在のFSB国境総局の職員総数は10万人超<sup>13)</sup>、業務用の馬が約2000頭、犬が約4000匹、沿岸警備隊の艦艇勢力が約500隻<sup>14)</sup>である。

## (2) 沿岸警備隊の創設

2005年5月にFSB国境総局にその海上勢力と陸上沿岸勢力とを統合して沿岸警備隊が創設されるという報道があったが、この時点の改革は、軍事組織の象徴としてFSB隷下で直ぐに廃止された総司令部(Главный штаб)の機能を継承するFSB国境総局組織局(Департамент)に、機能組織として、国境警備局、国境監督局などと並んで置かれていた海上警備機能を担う海洋警備局が沿岸警備局(Управление)に、地方機関の国境局の海洋部が沿岸警備部に改組されるとともに、国境局の海陸統合部署組織として沿岸警備分遣隊(Отряд береговой охраны)〔現海陸統合監部(Служба)〕が創設され始めるという段階であり<sup>15)</sup>、FSB国境総局組織局の沿岸警備局長もFPS海洋警備局長であったセルゲイ・ビャチェスラフ海員中将が就任していた<sup>16)</sup>。

FSB国境総局の現行2局体制に変わる改革は、効果的FSB沿岸警備システムの創設に関する2006年1月16日付け第169号大統領委任及びFSBが2006年に採択した2010年までのFSB沿岸警備システムの形成概念に従って行われ<sup>17)</sup>、2007年8月頃までに、これまでの国境総局組織局に国境警備、海上警備、国境監督などの機能を担う部局を置く機能別区分組織から、海軍と陸軍という軍種別組織のように、陸上・河川湖沼域を担う国境警備局と海洋・陸上沿岸域を担う沿岸警備局(Департамент)という対象別に独立した2局を国境総局に置く対象別区分組織に変わった<sup>18)</sup>。その初代沿岸警備局長には

FSB 出身の FSB 国境総局次長のビクトル・トルヴァノフ陸員少将が任命された<sup>19)</sup>。

沿岸警備局の傘下には、2007年5月のプロチェフ国境総局長の発言によれば<sup>20)</sup>、13の国境局<sup>21)</sup>（海洋方面に3つの沿岸警備国境局及び海洋国境を持つ連邦主体に10の国境局）（以下、沿岸警備系国境局）が置かれた。また、これら沿岸警備系国境局の傘下には、その市町村自治体レベルの部署組織として、FPS 地域局の直轄下にあった独立国境警備分遣隊、独立国境警備分艦隊及び独立国境検問所などを海陸統合した監部、並びに FPS 地域局の支部組織であった国家海洋監督局組織が置かれた。

具体的に如何なる国境局が沿岸警備局の傘下にあるのか、2009年1月11日付け第1号FSB令で承認された海洋生物資源保護監督国家機能の遂行にかかるFSB行政執務規則<sup>22)</sup>第6条の付属書1は、この国家機能を遂行する国境局として、次の13の沿岸警備系国境局を列挙している（下表）。

海洋生物資源保護国家監督機能執行連邦主体(方面)FSB国境局一覧表

北西連邦管区（フィンランド湾、バルト海、白海、バレンツ海、カラ海及び北極海）	
① ムルマンスク州国境局	③ サンクト・ペテルブルク市&レニングラート州国境局
② アルハンゲリク州国境局	④ カリニングラート州国境局
南方連邦管区（黒海、アゾフ海及びカスピ海）	
⑤ 黒海・アゾフ沿岸警備国境局	⑥ カルマイキヤ共和国&アストラハン州国境局
北コーカサス連邦管区(*1)（カスピ海）	
⑦ ダゲスタン共和国国境局	
ウラル連邦管区（カラ海、ラプテフ海及び北極海）	
⑧ クルガン州&チュメニ州国境局(*2)	
シベリア連邦管区（ラプテフ海、東シベリア海及び北極海）	
⑨ ノヴォシビルスク州国境局(*3)	
極東連邦管区（北極海、東シベリア海、チュコト海、ベーリング海、太平洋、ホーツク海、日本海及び間宮海峡）	
⑩ ハバロフスク地方&ユタヤ自治州国境局	⑫ サハリン沿岸警備国境局
⑪ プリモールスク地方国境局	⑬ 北東沿岸警備国境局

(\*1) 2010年1月南方連邦管区から北コーカサス連邦管区が分離新設

(\*2) 北極圏に面するヤマロ・ネツ自治管区の国境エリア監督組織はクルガン州&チュメニ州国境局<sup>23)</sup>

(\*3) 北極圏に面するタイミル自治管区の国境エリア監督組織はノヴォシビルスク州国境局<sup>24)</sup>

## 2 競合機能組織のFSBへの統合と国境総局中央機関のシム化

FSBの組織的最適化として、FSBと国境総局とで機能的に競合する組織が、

FSB に統合一元化され、国境総局の中央機関がスリム化された<sup>25)</sup>。プロンチーフ国境総局長は、これによって中央機関の機能が明確化され、大幅な定数削減が可能になり、現在中央機関が特に主力を傾注しているは、国家安全保障システム全体の枠組みの中での国境政策の作成及びFSB 諸機関が行う国境活動の組織化への参加であると述べていた<sup>26)</sup>。

具体的に国境総局の如何なる機能組織がFSB 本体組織と競合するとされたのであろうか。

(1) 航空隊：国境総局の航空隊は、ソ連邦 KGB の解体時に FPS に移管されていたものだが<sup>27)</sup>、FSB 航空局の傘下に移された。これによって国境総局が航空機を利用するには、その利用申請をFSB 長官に提出し、その承認を得る手続が必要となっている。

2007 年段階でFSB 航空局の航空勢力は約 300 機とのことだが、FSB 航空局長ニコライ・ガブリロフ少将によれば<sup>28)</sup>、この改革で航空要員の定数は1000人以上削減され、航空隊の部隊名称も変更され、各独立部隊は、大きいものがFSB 統合航空分遣隊に、小さいものがFSB 独立航空分遣隊となり、諸地域の部隊の管理は各航空センターが行っている。

現在、FPS のクカゴン軍事航空大学はFSB の国境系大学に改組され、FSB 航空隊の飛行士の募集は国防省の大学で行われている。その養成先の空軍では、軍事教育施設改革の一環として、ボロネジの軍事大学をベースに、空軍以外のFSB 航空隊などの要員養成をも行う空軍統一軍事教育研究センターが2012年までに創設されることになっている<sup>29)</sup>。

航空機の整備は、警備艦艇の整備と同様に、困難な状況にあり、経済性重視から小型機優先で、導入されている新型機は小型ヘリ Ka-226 及び軽飛行機 SM-92T (Finist)、並びに改良型 Mi-8 ヘリである。FSB 航空局が保有する航空機は一般的な固定翼及び回転翼機であるが、アミー航空隊（陸軍航空隊、国防省航空隊、地上軍航空隊）などとの差別化において唯一異なるのは上記 Ka-226 及び SM-92T、小型ヘリ Ansat 及び Mi-8 ヘリのような機体でさえ特殊装備を備えていることにある。

FSB 航空隊の主要任務は、各種犯罪対策のための航空偵察（国境、領海、排他的経済水域、大陸棚、海洋生物資源及び CIS 諸国外縁国境の警備、捜

索及び監視パトロール)、テロリストの早期発見及び無害化、FSB 特殊部隊(アルファ部隊、ガンパル部隊)等の輸送及び航空支援の3つである。

沿岸警備隊関係の新しい動きとして、Ka-27 型艦載ヘリの格納庫を備えた設計番号 1135.1 型 1 級警備艦 3 隻(北東沿岸警備国境局所属)の基地(パトパブロフスク・カムチャツキ市)及びこの Ka-27 型艦載ヘリを保有する FSB 唯一の部隊である第 5 統合航空分遣隊(エリゾボ市)があるカムチャツカでは、2005 年頃から極東連邦管区の FSB 航空隊のパイロットを集めて Ka-27 型艦載ヘリ搭載 1135.1 型警備艦を使った合同の艦載ヘリ離着艦訓練が行われている<sup>30)</sup>。

(2) 国際協力: FSB 国境総局の諸外国パートナーとの国際協力は FSB 統一国際協力システムの枠内で行われているとプロコチェフ国境総局長は述べているが<sup>31)</sup>、これを裏付けるように、国境総局の国際協力関係のインタビュー等で最近マスコミに登場しているのは FSB 第 5 総局(機動情報・国際交流総局)の国際協力局長クセニヤ・アルケイ陸員大將(CIS 加盟諸国保安機関・特務機関会議の書記)及びその第一次長ウジニル・ウヤノフ陸員少將であり、国境総局の国際協力業務は FSB 第 5 総局の管理下に置かれている<sup>32)</sup>。なお、この FSB 第 5 総局には、国際協力局のほか、機動情報局、分析局、戦略計画局、公開情報部及び大統領のための機動情報作成班がある<sup>33)</sup>。

(3) 対外諜報: 諜報機関が国内で、防諜機関が国外で活動することは許されないとし、KGB が解体される時対外諜報庁(以下、SVR)及び FPS が独立組織として分離され、通信軍が FAGCI に移管され、防諜機関となった FSB はその諜報機能組織を奪われていた。一方で、SVR は 1992 年に CIS 諸国との間でお互いに諜報活動は行わないという協定を締結し、CIS 諸国内では諜報活動ができなかった。こうした中で、その後 CIS 諸国内で民主化及び独立志向の高まりとともに政権交代等によりロシアから離反する動きが生じ、ロシアは CIS 諸国の政治状況をコントロールする必要に迫られ、SVR に代って FSB に CIS 諸国に対する諜報活動を行わせるべく、FSB に対外諜報機関を置く大統領令が 1999 年に署名された。この FSB 対外諜報の先頭機関が上記第 5 総局の機動情報局とのことである<sup>34)</sup>。

この FSB の対外諜報機能は、2003 年に廃止された FAGCI と FPS の機能(前者は一部、後者は全部)が FSB に移管されて更に強化された。FAGCI 関係

では、その通信保安総局からFSB通信保安センターが、通信設備無線電子諜報総局からFSB通信設備無線電子諜報センターが組織されている。FPS関係では、国境パトロールのほか、対住民情報収集活動などにより軍事的国境警備に対応する軍事諜報を想起させる諜報活動等をこれまで行ってきたFPSの機動(諜報・防諜・捜査)機関<sup>35)</sup>は、FSBと機能的競合性を持つが、その機能は複合的であり、FSBへの組織統合は行われず、FSB隷下の改革で国境総局の国境警備局及び沿岸警備局の2局それぞれに固有の機動機関が置かれ、CIS外縁国境を突破してくる武装組織犯罪集団への対策など現代の国境安全保障上の脅威であるテロや越境犯罪などの対策に特化した機動機関に生まれ変わり、勢力の国境現場への集中により強化されている。同時に、国境現場の諜報・防諜・捜査機関として、第5総局のほか、防諜、テロ対策、経済保安など他のFSB総局との機能的連携が強化されているものと思われる<sup>36)</sup>。

(4) 教育訓練：国境総局の教育施設はFSB組織人事作業総局の傘下に移され、法学系及び工学系などの高等専門教育を行うFSB国境系大学としてモスクワ、ゴリツィン、カニングラード、ウカガン及びバハロフスク国境大学が設置され、海上部門の要員養成機関として沿岸警備大学が新設されている。各大学では、修業年限5年又は修業年限1年+通信教育6年という2種類の形式での高等専門教育及び専門に応じて修業年限2年～3年の中等専門教育を行っている<sup>37)</sup>。また、これまで徴兵者の教育訓練を行ってきた各地の教育センターは統廃合により再編され、兵卒・水兵、軍曹・兵曹及び准尉の職の契約職員の初任教育施設(1～5ヵ月)として生まれ変わっている<sup>38)</sup>。

現在の国境総局職員の採用はFSB職員と同じ採用原理で行われている。このため採用条件の厳しさにより人員充足に一定の問題が生じているが、量よりも質が重要として、この原理が堅持されている<sup>39)</sup>。

(5) 広報業務：FPSの広報組織はFSB社会交流センターの傘下に入れられたが、自治性は維持されている<sup>40)</sup>。また、「国境」新聞等の各種新聞雑誌の出版所もFSBの直轄下に置かれている<sup>41)</sup>。

(6) 医療保障：FPSの軍事医療保健施設は、2004年8月30日付けFSB令第569号に従ってFSB軍事医療局及び地方保安機関に移管された<sup>42)</sup>。

### 3 FSB 国境総局シチュエーション部と国境局調整部（シチュエーションセンター）

現在ロシアでは、組織トップの迅速な意思決定のツールとして各種情報をオンラインネットワーク化し、「モニタリング－分析－決定－計画－執行」のサイクルでトップマネジメントを行うためのシチュエーションセンターの整備が盛んに行われている。大統領府附属安全保障会議のシチュエーションセンター（1994年）、非常事態省の危機管理センター（2006年）、政府、大統領府、パワー官庁のシチュエーションセンターなど連邦レベルで約30のシチュエーションセンターが現在すでに活動しており、連邦主体レベルで約80、地方自治体レベルで約2000のシチュエーションセンターが今後整備される計画とのことである<sup>43)</sup>。

FSB 国境総局では、2008年頃にシチュエーション部が設置され、国境局及びその部署組織にシチュエーションセンターのシステム整備が行われている<sup>44)</sup>。他方、この施策は、各種業務の最大限の自動化による国境局の定員削減と一体になった国境警備保安モニタリング情報ネットワークシステムの整備でもあり、国境総局の最重要課題の一つである。このシチュエーションセンターシステムの整備は、技術発展局が管理監督を行っているが、その主要な財源は2003年～2011年の国境特別計画及び計画中の2012年～2020年の国境特別計画である。

このシチュエーションセンターシステムのモニタリング端末となる現場施設の整備は機動的警備のインフラ整備でもあるが、北コーカサス地域、黒海沿岸、カザフスタンの国境を最優先に、①音響、磁気、震動、赤外線センサー、テレビカメラ及びデータ送信機器等を備える遠隔監視保安システム<sup>45)</sup>、②無人広域赤外線・ビデオ監視ポスト<sup>46)</sup>、③Xバンド・レーダー、赤外線カメラ及びビデオカメラ、GPS、VHF及び衛星無線機を搭載する陸上/水上監視車<sup>47)</sup>などの整備が各地域で行われている。沿岸警備隊関係では、モジュール化された最新の近距離ミリ波及び遠距離センチ波の監視レーダー、AIS、赤外線カメラ及びビデオカメラ、レーザー測距儀、デジタル情報統合処理機器及びマイクロ波回線データ伝送機器などにより沿岸水域全体の状況をビジュアル化する近代的な有人無人の沿岸工学監視所<sup>48)</sup>ネットワークシステムの整備が2006年頃から行われている<sup>49)</sup>。黒海、アゾフ海、カスピ海、フィンランド湾、バルト海の沿岸では整備が進んでおり、極東の日本海、ホーツク海及びベーリング海の沿岸、並びにバレンツ海及び白海の北極圏沿岸でも順次整備が行われることになっている<sup>50)</sup>。

更に、小型の固定翼及び回転翼の無人機の導入試験が行われているほか、艦艇及び航空機用端末の整備として、陸上にリアルタイムで状況を伝送する機器

の警備艦への整備、並びに地上の指揮拠点、国境巡視班からの状況データの収集及び分析によりリアルタイムに地上勢力の指揮を可能にする機器を装備する指揮航空機及び指揮ヘリの整備なども計画されている<sup>51)</sup>。

シュエーションセンターシステムでは、上記モニタリング端末などからの部内オンライン情報ばかりでなく、関係省庁及び外国カウンターパート機関からの部外オンライン情報も重要な情報源となっている。沿岸警備隊関係では、こうした内外からの情報の収集分析調整機能を高め、海洋国境活動に対する情報支援を強化するため2009年末頃までに沿岸警備系国境局に11の調整部（課）<sup>52)</sup>が設置され、7つの関係省庁と水上状況モニタリング情報の交換システムを通じて情報交換を行い、21の外国沿岸警備組織と自動データ交換を行っているとのことである<sup>53)</sup>。

シュエーションセンターシステムの沿岸警備隊系システムに関しては、そのプロトタイプとも言えるFPS海洋警備機関状況把握・管理・航海・通信総合システム概念が2001年9月にトッキーFPS長官によって承認されていた。この概念は、中央機関、地域局及び諸部隊の司令部にそれぞれ相応の機能モジュールを、警備艦、航空機及び沿岸工学監視所に客体モジュールを整備し、機能モジュールは国防省、運輸省、国家漁業委員会及びその他省庁の情報システムに接続されることを規定していた<sup>54)</sup>。脚注54)の文献によれば、この概念の実現に当たってFPSは地域局に調整センターを設置し、運輸省及び漁業国家委員会と情報システムの利用協定を締結したとのことであるが、この調整センターは、2002年6月14日付け第375号FPS海洋警備機関規程（第1条等）によれば<sup>55)</sup>、当初は機能が異なる2種類の別個のセンターとして生まれていた。

一つ目のセンターは、フィンランドが提唱し、1997年6月に最初の会議が開かれたバルト海地域国境協力会議（BSRBCC）の枠内でのCoastnet情報システムを利用した情報交換協力のために参加各国に設置された調整センターであり、ロシアでは1999年にFPS北西地域局に内国国境調整センターの名称で設置された<sup>56)</sup>。参加各国の調整センター間の情報交換協力の主たる内容は、密航、武器・麻薬・アルコール・タバコ・自動車及びその他高関税物品の密輸、国際テロ、密漁、AIS未装備小型船及び容疑船等の情報である<sup>57)</sup>。このFPS北西地域局の内国国境調整センターは、バルト海地域の警備業務の特徴から、2001年頃から整備が進んでいたVTS、AIS、LRIT及びPSC等の情報源となる運輸省海運河川運輸庁のフィンランド

湾東部地域航行安全システム<sup>58)</sup>と接続された<sup>59)</sup>。

北太平洋地域にも、日本が提唱し、2000年に最初の会合が開かれた北太平洋地域海上警備機関長官級会合という多国間海上保安協力組織が誕生したが、この北太平洋地域での協力活動にもFPS主導でバル海地域と同じような常時情報交換システムの導入が行われ、上記会合のFPS側のカウンターパート機関であった太平洋地域局に内国国境調整センターが2001年に設置された<sup>60)</sup>。

二つ目のセンターは、1999年2月26日付け第226号政府決定に基づき国家漁業委員会が創設したインマレット-C及びアルゴス衛星等を利用する水生生物資源モニタリング漁船活動監視監督部門システム（以下、漁業モニタリングシステム）〔内国漁業モニタリング通信システムセンター（モスクワ）、2つの地域モニタリングセンター（ムルマンスク及びペトロボフロフスク・カムチャトキー市）、8つの地域情報センターから構成される〕<sup>61)</sup>が持つ漁船の衛星位置情報等を漁業取締に利用するためにFPS北極地域局（ムルマンスク市）及びFPS北東地域局（ペトロボフロフスク・カムチャトキー市）に設置された操業状況国家監督分析予測センター（以下、操業監督分析センター）である。2001年2月10日にFPSと漁業国家委員会との間で利用協定が締結されたが、当初の情報交換は手交であった<sup>62)</sup>。その後、漁業モニタリングシステムの端末が置かれオンライン化された<sup>63)</sup>。北東地域局の操業監督分析センターは2001年12月1日に同地域局国境警備部に海員大佐が主催する34名の専門家集団からなる定員組織として設置された。この操業監督分析センターは、その名称から分かるように、漁船の衛星位置情報のほか、操業許可情報、漁獲情報、転載情報などから要検査船を割り出すなどの分析を行う情報分析官定員を有している<sup>64)</sup>。

ところで、上記1999年2月26日付け第226号政府決定の第6条に基づき1999年6月11日付け第313号FPS令及び第153号国家漁業委員会令によってロシア漁船・外国漁船海洋監督拠点通過手続規程（以下、監督拠点通過手続規程）が承認されている。同規程第2条はロシア排他的経済水域の入出域情報の報告を入出域24時間前までに無線又はファックスで行うことを漁船に義務付けているが、この入出域情報の報告先は、同規程付属書2によれば、FPS地域局の支部組織である国家海洋監督局であった。

2005年9月1日に北東沿岸警備国境局国境警備部の操業分析監督センターが同部の調整センターに改組されたが<sup>65)</sup>、2007年6月14日付けの新しい監督拠

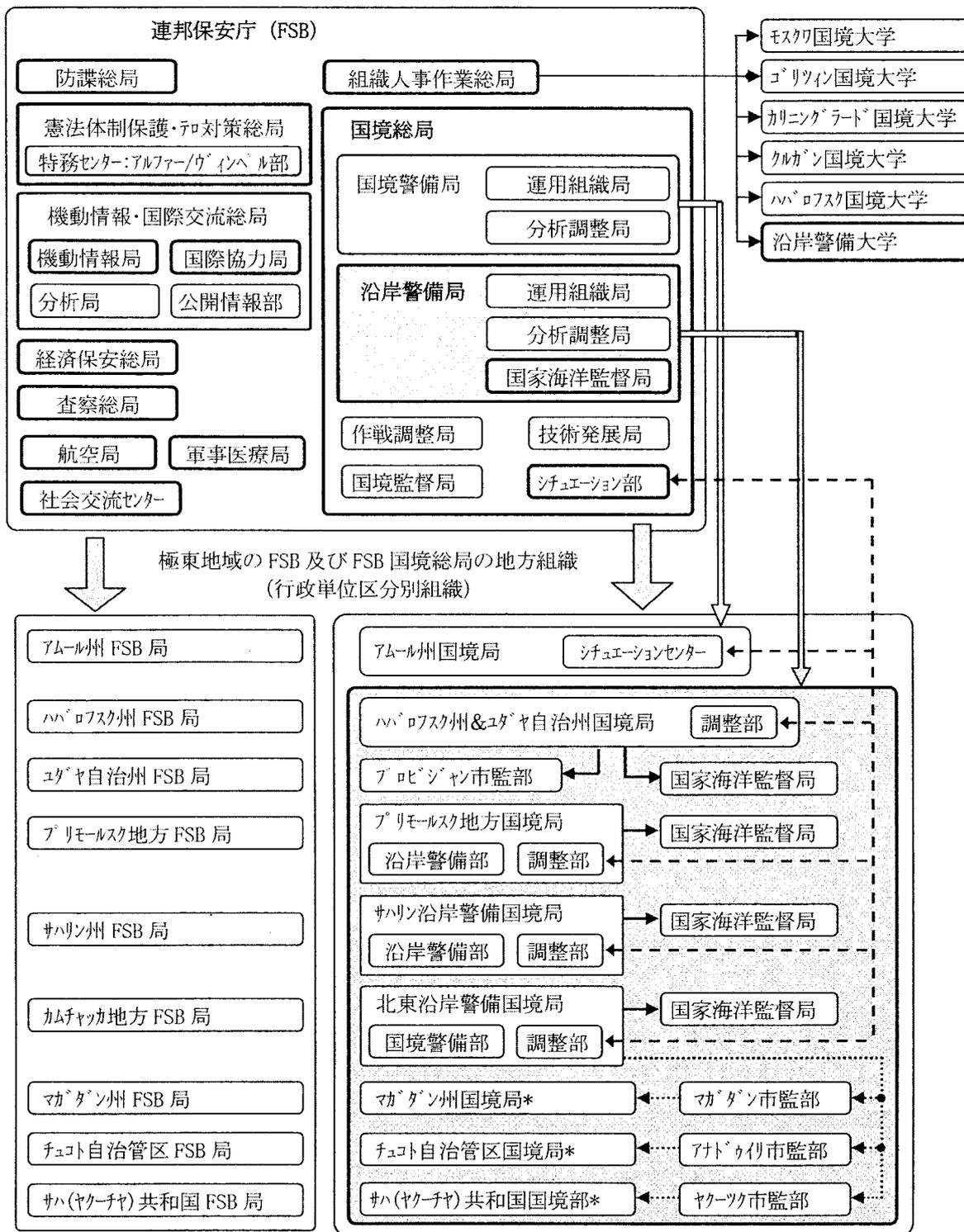
点通過手続規程によって2007年11月1日以降は、漁船からの排他的経済水域入出域情報の報告先が国家海洋監督局から調整センターに改正された。これは、部内情報システムの充実並びに関係省庁との情報システム利用協力及び外国カウンターパート機関との情報交換協力の拡大により、上記2つのセンターの機能を統合し、海上警備全般の調整センターとして機能強化するためだったと思われる。

2001年に最初の会合が開かれたロシア、ブルガリア、グルジア、ルーマニア、トルコ及びウクライナが参加する黒海地域沿岸諸国国境・沿岸警備フォーラム（BSCF）では、同フォーラム参加各国間の常時情報交換のため情報調整センターをブルガリアのブルガス市に、内国調整センターを各国の国内に創設することが2006年11月8日付のBSCF協力協定によって定められている<sup>66)</sup>。

また、1997年1月17日付け第11号大統領令によりその概念が承認され、1998年8月10日付け第919号政府決定によって承認された世界海洋連邦特別計画<sup>67)</sup>のサブプログラムの一つであり、海事活動への情報支援のために海事関係省庁の海洋情報システムを統合する統一国家世界海洋情報システム（ESIMO）の創設に関して15の関係省庁の合意が得られ、2005年12月29日付け第836号連邦政府決定によってESIMO規程が承認された。これにより各関係省庁にESIMOセンターが置かれ、各センターのシステム統合により関係省庁間の情報交換協力が促進されることになった。FSBは、組織内にESIMOセンターを持たず、利用者の立場でESIMOに参加しているが<sup>68)</sup>、現在連邦宇宙庁及び連邦水象気象環境モニタリング庁の衛星情報システムの利用可能性を検討している<sup>69)</sup>。

その後、2009年に沿岸警備系国境局の沿岸警備部又は国境警備部の調整センターは国境局の調整部に昇格した。これは同センターに各沿岸警備系国境局のシェーションセンターの機能を持たせるためと思われる。2009年1月22日付けの連邦漁業庁とFSBとの間の現行の水生生物資源保護・国家監督相互活動手続・情報交換協定によれば<sup>70)</sup>、両庁の相互活動機関は、連邦レベルが連邦漁業庁及びその2008年設置の現行システム<sup>71)</sup>の漁業モニタリングシステム・通信センター<sup>72)</sup>とFSB国境総局及びそのシェーション部、連邦主体レベルが漁業モニタリングシステム・通信センターの支部及び地方部（極東関係：カムチャッカ、サハリン及びウラジオストク支部）と国境局のシェーションセンター（調整センター）である。この沿岸警備系国境局調整部は、他の国境局等との相互活動の調整なども行っている<sup>73)</sup>。

FSB 及び FSB 国境総局とその極東地域地方機関の概要 (各種資料より作成)



\* 2011年1月1日から北東沿岸警備国境局の監部から連邦主体の国境局(部)へ分離昇格<sup>74)</sup>

#### 4 国家装備計画と海軍及び沿岸警備隊

現行1996年国防法第1条第6項に規定される国防領域における個別的課題の履行を担う連邦保安機関の内部組織であるFSB国境総局の沿岸警備隊

の装備（BBCT）は、海軍と同様に、大統領によって承認される10カ年の国家装備計画及びその他の国家計画に規定され（国防法第4条及び2010年2月5日付け第146号大統領令によって承認された軍事ドクトリン第42条）、納入品目及びその数、予想価格及び国家発注者等が明記される毎年の国家防衛発注（「国家防衛発注について」の1995年12月27日付け第213-FZ号連邦法第2条及び第3条）によって予算化されている。

現行の2011年～2020年の国家装備計画（2020年計画）の予算総額は約20兆7000億ルーブルであるが、その内訳は、19兆ルーブルが国防省に、残りが内務省、非常事態省、FSB、SVR、連邦麻薬取引取締庁、連邦行刑庁及び国営企業「ロスタム」に配分されている<sup>75)</sup>。

この10カ年の長期国家装備計画の制度はソ連時代からのもので、ロシア連邦ではこれまでに3つの計画〔1996年～2005年の国家武装計画（2005年計画）、2001年～2010年の国家武装計画（2010年計画）及び2006年～2015年の国家装備計画（2015年計画）〕があったが、全て修正時期の5年で新しい計画に変わっている。

これまでの国家装備計画が計画半ばで破綻した主たる原因は、国の資金不足であり、これに関連した戦略装備偏重及び通常戦力の残り物原理、並びに軍産複合体の疲弊及び技術革新の遅れであり<sup>76)</sup>、期待と現実の乖離であり、結果として予定された成果が得られなかったことにある。

2005年計画は、ハイパーインフレーション及び財政収支の慢性的赤字を抱える中で、1997年のアジア通貨危機の余波を受けた国債償還停止、対外債務不履行という1998年のロシア通貨危機に象徴される経済の低迷により1997年には事実上破綻し、民需転換と輸出に生き残りをかける軍需産業も危機的状況に陥った。

プーチン大統領の一期目と重なる次の2010年計画期は、石油価格の回復により財政状況が徐々に持ち直し、2000年には財政収支が黒字に転じ、石油価格の追い風を受けたロシアの経済成長が始まった時期である。しかし、2010年計画の予算は新型装備の購入を犠牲にした古い現有装備の改良及び修理の優先という程度の資金レベルであり、この時期に近代装備の比率が20%から10%にまで低下している<sup>77)</sup>。

次の2015年計画期は、計画開始の2005年頃から軍にお金が行き始め、

産業界も防衛発注額が武器輸出額を超え始めるなど経済安定化の時期であった<sup>78)</sup>。しかし、これまでの計画の失敗のツケとして産業界における技術革新の遅れ、2008年のロシア・ゲルジア5日間戦争でも周知となった未だソ連邦時代の装備が主力となっている通常戦力の待ったなしの更新、2008年9月のリーマンショック及びその後の原油価格の暴落による景気の急激な落ち込みなど、期待と現実の乖離を知らしめるとともに、予算配分の後期偏重などもあり、従前と同じく計画半ばで終わった。

現行の2020年計画は、軍及び産業界にとって痛恨の極みであるが、フランスのミストラル級強襲揚陸艦の購入という高額の外国製装備の購入に代表されるように、その実現において結果最優先の極めて現実的な対応を取らざるを得ないものとなっている。2020年計画は、新型装備の比率を2015年までに30%までに、2020年までに70~80%までにすることを目的としている<sup>79)</sup>。

#### (1) 海軍の水上艦整備

ロシアの経済状況が改善に転じ始めた2000年以降に、将来的な方向性を示す文書として2000年3月4日に「2010年までの海軍活動領域におけるロシア連邦の政策の基礎」、2001年7月27日に2020年までのロシア連邦海洋ドクトリンがそれぞれ大統領令によって承認されたほか、2001年9月1日に国家海事政策の実現のための海事関係省庁の活動の調整機関として連邦政府付属海事参加会が政府によって設置されるなど前向きな新しい動きが現れた<sup>80)</sup>。

しかし、現状は厳しく、2000年末に2001年~2005年の海軍建設発展計画が作成承認されたが、この文書は「平時における遠海域及び遠洋域の任務遂行能力は保持せねばならないが、艦隊の戦時任務の大部分は近海域へ後退させる」という強大を誇ったソ連邦海軍の著しい艦艇削減及び任務縮小を行う内容であった。当時の海軍総司令官クエードフ海軍上級大將は、これを「退いての発展」と述べていた<sup>81)</sup>。

また、クエードフ海軍上級大將によれば、10年後、2016年までの海軍の将来像は、全ての海域（遠洋域及び近海域）で平時任務を遂行する海洋戦略核ミサイル戦力と近海域で最小十分なレベルの戦時任務を遂行する海洋通常戦力とを柱とし、その海洋通常戦力発展の基本方針は次のとおりであった。

①修理が経済的に妥当でなく、その維持が容認しがたい出費となるよう

な予備役の艦艇及び潜水艦の艦隊からの排除、②任務遂行確保に最小限許容されるレベルでの艦艇及び潜水艦の常備体制維持（時代が良くなるまで生存艦の温存）、③今後10年間艦隊の基盤となる現在の主要な艦、装備及び兵器の大幅な及び部分的な改良による海洋通常戦力の戦闘能力の向上、④活動海域に応じた最小十分な勢力構成を考慮した少ない経費での最新技術を用いた多目的艦の段階的な建造（削減艦の補充が不可能であり、造艦に時間を要するため造艦方針及び艦分類を見直し、ソ連邦時代の機能別の多種多様な艦構成から多目的艦のシリーズ建造への移行）。

2004年に国防省は、2040年ないし2050年までの海軍発展計画を作成したが、その内容は、上記2001年～2005年の海軍建設発展計画を踏襲し、大洋におけるロシアの国益保護の放棄を規定し、艦隊の行動域は距岸500km以内というものであった。クエートフ海軍上級大将によれば<sup>82)</sup>、修理体制を整え、現存艦をできる限り長期間維持する、産業界は造艦を急ピッチで行える状況にはなく、大型艦からは手を引く、今後の新造艦は近海域用途のフリゲート艦及びコルベット艦になる、ごく少数の現存大型艦に近代的な装備を施すのは将来の話とのことである。

これに関連し、海軍技術総局の見込みでは、艦船修理に然るべき資金供給があれば、現行の大型水上艦はまだ10年～15年は持ちこたえられるが、継ぎ接ぎだらけの中型艦および小型艦は救うべきではなく、これらは完全に耐用年限を使い果たしており、艦隊の大部分を構成するこうした艦は最初に解役されることになる。

また、海軍総司令部によれば、新造水上艦の第一号は3級艦の近海域多目的対潜・ミサイルコルベット艦で、その次が設計段階にある2級艦の遠海域多目的フリゲート艦で、フリゲート艦の後が1級艦の大洋域多目的駆逐艦であるが、駆逐艦が現れるのは現役の対潜艦、駆逐艦および巡洋艦の解役が始まる10年以上先になり、問題は、我が国の造船界が、予想される大型水上艦の連続的修理がある中で、新艦の建造を然るべきテンポで行うことができるか否かにあった<sup>83)</sup>。

その後、経済状況が安定するにつれ、空母建造など花となるようなプロジェクトが頻繁に話題とはなるが、「花よりは団子」と実現が保障される、しか

も必要なプロジェクトのみが支持され、2011年の現在に至るまで上記の2000年末承認の海軍建設発展計画の方針が基本的に受け継がれている<sup>84)</sup>。

2011年3月の国防省第一次官ウラジーミル・パポフキンの発言によれば<sup>85)</sup>、海軍発展の基本的な動向は従前どおり戦略核ミサイル戦力(海軍では「ブラハ」弾道ミサイル搭載の設計番号955「ブラハ」型戦略ミサイル核原潜、設計番号885「ヤーセン」型巡航ミサイル搭載多目的原潜)重視で潜水艦が柱となっているが、水上艦の新造に関して次のように述べていた。

この先15年～20年後に現在の艦隊勢力の90%以上を占めるソ連邦時代建造の戦闘艦を全て解役せざるを得なくなる。近代艦の設計、建造、試験にかかる期間を考慮すれば、15年は非常に短く、時間はない。ロシアが2025年までに戦闘能力のある海軍を持つには新型戦闘艦のシリーズ生産を直ちに開始する必要がある。

新型艦建造の基本方針は、造艦を安価で容易にし、結果として納期が短くなる最大限の一元化とシリーズ生産である(標準化されたエネルギーシステム、武器システム、戦闘情報管理システム、無線電子装備システム等の利用であり、装備システムが統一化された艦は効果的に活動する編成単位の構築を可能にし、編成単位の維持経費も軽くなる)。また、造艦は下から上へ、比較的安価な小型艦から高価な大型艦へ〔3級艦の2000トン級コルベット艦及び2級艦の4000トン級フリゲート艦(現行装備計画)、1級艦の1万トン級駆逐艦(次期装備計画)の順に〕段階的に行われる。これら新世代のコルベット艦、フリゲート艦及び駆逐艦がこの先20年～30年間水上艦の基盤を担うことになる。

しかし、これらの新型艦は護衛にすぎない、旗艦となる空母、大型原子力巡洋艦が必要である、これに対し、護衛のいない大型艦は裸の王様である、といった相反する議論が行われているが、フランスから購入される4隻のミストラル級強襲揚陸艦はこの旗艦の役割を担うということであろう。ロシア戦略技術分析センター所長スラン・プーハフ氏は、ロシアはこの先20～30年間近海域及び世界海洋域に自国艦隊の安定したプレゼンスを必要とするが、ミストラル級強襲揚陸艦は戦略的に重要な地域及び紛争地域に必要な勢力を機動的に展開し、展開勢力の機能を確保する軍事インフラの遊撃要素となると述べている<sup>86)</sup>。

上記のコルベット艦及びフリゲート艦の建造決定プロセスは、決定当時の造艦環境を

如実に示すもので、次のようであった。

ステルス技術を用いたロシア最初の警備艦（CKP）は1997年7月27日にカリニングラートのヤンターリ造船所で起工された設計番号12441型（先頭艦「ルベーク」）であった。しかし、同艦は、資金不足、過度の難しさ及び技術的リスクによりその建造が何度となく中断されていた（最終的に建造は中止された）。そのためもっと容易で安価なタイプの艦の建造も開始されることになった。それが2001年12月21日に北方造船所で起工され、最初にシリーズ生産されることになった「アルマス」中央海洋設計局（以下、「アルマス」設計局）設計の設計番号20380型コルベット艦「スフェルグーシ（番人）」（対潜ヘリ搭載多目的近海域警備艦）であり、その建造には上記の警備艦「ルベーク」の研究開発成果が活用された。こうした経緯もあり、先頭艦「スフェルグーシ」は、近代的なステルス性、モジュール型武装の次世代型であるが、万能艦載射撃システム（イージス武器システム）の導入は見送り、ディーゼル動力による適度の速力といった価格を抑えたものになっている<sup>87)</sup>。

フリゲート艦に関しては、当初、国防省ではソ連邦時代の対潜特化型の対潜ヘリ搭載警備艦である北方企画設計局設計の設計番号1135型（満載3190トン）及びその改良型で現在のFSB沿岸警備隊のフラッグシップである設計番号1135.1型（満載3642トン）〔1級警備艦として3隻が現存〕をベースにステルスデザインの多機能艦に改良された輸出型で、インド海軍向けに建造実績のある設計番号11356型（満載4035トン）を建造する動きがあった。しかし、2005年2月28日に入札対象となったのは同じく北方企画設計局設計の次世代型の設計番号22350型フリゲート艦（満載4500トン）であり、先頭艦「アドミラル・ゴルショフ」が2006年2月1日に北方造船所で起工された<sup>88)</sup>。

しかし、ステルス性及びモジュール型武装など新システムの比率が50%以上にもなるこの設計番号22350型多目的フリゲート艦の開発は困難を極め、建造は容易ではなく、しかも高価で、隻数を確保するには遅延リスクを伴う恐れがあった。そのため、艦種（プラットフォーム）の統一化には反するが、建造にこなれた上記の11356型に標準装備の統一化に従って新型艦に導入される万能艦載射撃システム、戦闘情報管理システム「シグマ」等の一連の新装備を導入した11356型が並行してシリーズ建造されることになった<sup>89)</sup>。装備が一新された11356型フリゲート艦は、22350型に比べ、排水量（4500トン対4000トン）、万能艦載射撃システムの発

射装置数(16対8)、備砲(130ミ対100ミ)と性能が劣り、スルス性能も低いが、建造価格の安さ及び建造期間の短さ(3年以下)でこれらの劣性を補っている。黒海艦隊への配備予定の1番艦が2010年12月18日に、2番艦が2011年7月8日に起工されている<sup>90)</sup>。

造艦方針は定まったが、現在の問題は造艦のテンポである。新型のコルベット艦及びフリゲート艦のシリーズ建造は開始されたが、完工し、就役しているのはバルチック艦隊に編入された設計番号20380型多目的コルベット艦の先頭艦「スフェグーシ」(2008年2月28日就役)とシリーズ1番艦「サブラジールチェリヌ」(2011年10月14日就役)の2隻にすぎない。

## (2) 沿岸警備隊の艦艇整備

沿岸警備隊でも、規模の違いはあるものの、海軍と同様に、警備艦艇の大部分はソ連邦時代に建造されたもので老朽化が進み、早急な更新を必要としているが、その更新、特に大型艦の更新は遅々として進んでいない。

FSB 国境総局には、国家装備計画のほかに、すでに言及したように、国境特別計画という国境整備財源があり、陸上では近代的な国境警備システムの整備が進んでいるが、この資金は大型艦船の建造には使われていないようであり、報道では、新造艦艇の隻数の多さが強調されているが、河川湖沼域を含めた小型艦艇の整備にすぎない<sup>91)</sup>。

こうした状況を海員は、陸上の手法での海洋警備の再編は100年も前から見通しの暗いものと分かっており、2003年7月1日のFPSの廃止及びその機能のFSBへの移管に始まる国境総局での止むことのない流行病的な改革は、ソ連邦崩壊後の新しい未整備の陸上国境に資金が注ぎ込まれるばかりで、沿岸警備隊の艦艇整備は掛け声だけの残り物原理となっていると述べていた<sup>92)</sup>。

FPS時代、排他的経済水域及び大陸棚の警備及び漁業取締など業務及び業務域の拡大により高速大型艦の需要が高まったが、保有大型艦は、一部を除き、基本的に低速であり、資金不足の中、打開策として2002年にカニングラートのヤンターリ造船所で設計番号6457S型パトロール船「スプルト(大ダゴ)」の先頭船の建造が開始され、11隻がシリーズ建造される計画であった。当時、相当な額の国境警備隊装備の購入を規定した国境特別計画が2002年には

承認され、2005年からはその本格的な導入が始まるとして、トッキーFPS長官は、海洋警備隊でも新艦船の建造が可能になるであろうと述べていた<sup>93)</sup>。

しかし、2010年6月のプロチーフFSB国境総局長の発言によれば<sup>94)</sup>、2003年～2010年の国境特別計画(2009年に2011年まで延長)からの資金の大部分は陸上に使われ、海上には陸上警備の補完目的にしか使われていない。海上向けの主たるものは艦艇基地の整備(黒海、カスピ海及びバルト海地域の連邦崩壊後に失われた艦艇基地の代替基地の整備及び老朽基地の近代化)並びに沿岸工学監視所の近代化及び増強である。また、2011年5月にプロチーフFSB国境総局長は、国境機関の装備近代化の中で最も困難なのは警備艦艇及びパトロール船艇の新造であると述べている<sup>95)</sup>。

沿岸警備隊の現存1級艦は、上述の設計番号1135.1型警備艦(満載3642ト、31ノット)3隻[ジェルゾンスキー(1984年12月就役)、アヨール(1986年9月就役)、ヴァロフスキー(1990年12月就役)]及び2008年から再開された北極パトロールを担っている設計番号97P砕氷型警備艦(満載3525ト、速力15ノット)5隻[ホム(1980年12月就役)、アトイリ(1976年9月就役)、トウナイ(1977年12月就役)、ネ(1978年12月就役)、ムマンスク(1981年12月就役)]であり、海軍の1級艦と同様に延命を余儀なくされている。

海軍の継ぎ接ぎだらけで救うべきではない耐用年数を完全に使い果たしている中型艦及び小型艦に該当する沿岸警備隊のソ連邦時代の2級艦以下の警備艦は、設計番号745P砕氷曳船型2級警備艦(満載1656ト、速力14ノット、1970年代～1980年代建造16隻、1990年代建造2隻、2000年代建造1隻)を除き、海軍と同様に余命がなく、解役が進んでいる。

沿岸警備隊で海軍の新型多目的コルベット艦及びフリゲート艦と同じ立場にあるのがスウェーデン海軍のガイスビュー級コルベット艦(沿海域戦闘艦、満載640ト)を意識した北方企画設計局設計の設計番号22460型の小型ヘリ(Ka-226型又は無人機<sup>96)</sup>)用甲板・船尾スロープ付き多目的2級警備艦[滑走型、満載630ト、速力30ノット]であり、先頭艦「ルバー」が2007年9月3日に起工、2010年5月12日に黒海・アゾフ沿岸警備国境局ボロンスク市監部に配備され、シーズ1番艦が2010年5月12日に起工、2011年11月25日に進水し、同2番艦が2010年12月22日に起工されている。この22460型警備艦は、下記の新造小型

高速警備艦艇とともに黒海沿岸のソチでの2014年冬季オリンピックの海上警備を担うことになっている<sup>97)</sup>

パトロール船に関しては、1998年にFPSが農業食料省漁業局の海洋水域漁業規制局から移管を受けた<sup>98)</sup>設計番号850225「コマントール」型ヘリ甲板付きパトロール船4隻(1989年及び1990年デンマーク建造各2隻、満載約2600トン、速力19.2ノット、プリモリエ地方国境局ウラジオストック市監部所属)がFSB隷下で見直され、2008年からKa-27型対潜艦載ヘリの離着船ができるようヘリ甲板の補強及びヘリシステムの整備のため大改装修理を順次受けており<sup>99)</sup>、2012年9月のウラジオストックでのAPEC首脳会議の海上警備でその一翼を担うことになっている。

上述の設計番号6457S型の小型ヘリ用甲板付きパトロール船「スプルト」(排水量型、満載835トン、速力21.5ノット、乗員15名+乗客10名、ムルマンスク地方国境局ムルマンスク市監部所属)<sup>100)</sup>は、ヤンターリ造船所と協力関係にあるドイツ企業「Abeking&Rasmussen」社が設計したドイツ内務省国境警備隊自然保護パトロール船の先頭船をプロトタイプとして「アルマス」設計局がFPS向けに改装したもので、2002年に起工、2004年に配備予定であった。しかし、実際には2009年5月に完工、6月にムルマンスクに配備され、バルツ海スヴァールバル諸島の漁業水域警備を担っている。初代船長はムルマンスク州国境局沿岸警備隊の元海員中佐である<sup>101)</sup>。漁業規制局から移管された予算定員が文官組織であった国家海洋監督局の組織も、トップの局長及び監督官は軍人職に変わり<sup>102)</sup>、パトロール船の船長も沿岸警備隊OBというように上から次第に軍事色に染まってきている。

この「スプルト」型のパトロール船は、その後2隻が追加建造されることになった。上述の先頭船は国家防衛発注の枠で建造されたが<sup>103)</sup>、追加の2隻の財源は、「2009年～2014年の漁業コムプレックス資源ポテンシャルの利用効率向上及び発展」連邦特別計画<sup>104)</sup>である。同計画は、2007年9月22日付けプーチン大統領の委任に基づき作成、2008年8月12日付け第606号政府決定によって承認され、その国家発注者は連邦漁業庁及びFSB、調整者は連邦漁業庁である。当初計画では、海洋生物資源の保護領域における国家監督確保のためにFSB国境機関向けに「スプルト」型パトロール船2隻、並びに208隻のモーターボート〔設計番号Master-651(122隻)、Kajman-450A(16隻)、KS-701(57隻)、KS-110(2隻)〕の建造が計画されていた。しかし、税関が建造を開始(2007

年起工、2009年12月進水）しながら、資金不足で建造を取り止めた設計番号22120型の小型ヘリ用甲板付き税関船（満載1023トン、速力23ノット、乗員16名＋旅客14名）をFSBが引き取ることになり、2010年に建造計画が見直され、パトロール船「スプルト」に代えてこの税関船がパトロール船「フルガー（大吹雪）」として継続建造されることになった<sup>105</sup>。この先頭船は2010年12月に完工、2011年9月に北極回りでサリン沿岸警備国境局ペリスク市監部に配備され、2隻目のシリーズ1番船が2011年11月25日に起工されている。

このほか、小型情報収集船（503R型）などの改装型もあった設計番号503型冷凍巻網トロール漁船をプロタイプとする中型冷凍トロール船の建造遅延船（503M/RR型：満載1238トン、速力12.6ノット）2隻を沿岸警備隊が引き取りパトロール船に改装している。船体番号PPS-818（1996年起工、2003年就役）がカムチャッカ、PPS-819（1997年起工、2008年就役）がサリンに配備されている<sup>106</sup>。

武装立入検査班等の上乗り要員用に十分な乗客定員を有する大型パトロール船、特に、ヘリ甲板付きパトロール船などは、警備艦及び航空機などとの連携に必要な最新の情報通信システムなどを備え、汎用船及び汎用機に特殊装備と特殊部隊というFSB的思考の中でその役割が高まっている。

小型艦艇の建造は、その価格もあるが、一定の成果を得ている。沿岸警備隊の最近の新造小型艦艇の多くは、海軍の新型多機能コルベット艦「スチェグーシ」の設計を行った「アルマス」設計局が開発設計したものである。「アルマス」設計局は、艦艇の設計に当たってその統一的アプローチとして武装、通信、操船システム及び機械設備の高度な一元化、並びに航海戦術システム及び統合船橋システムなど各種装備及び機械設備の最大限の自動化を行っており、現代の海洋警備環境に応えるこうした艦艇を次の3区分の警備水域にそれぞれ配備させる新しい統合海洋警備システムの構築を提案している<sup>107</sup>。①沿岸域（距岸3マイル）の領海、内水海峡、港外及び湾のオープン錨地には、高速警備艇「マンガースト（マンガース）」（設計番号12150、総トン数27.2トン、速力50ノット）、「ソバリ（クテン）」（設計番号12200、総トン数57トン、速力47ノット）、「ミラージュ（蜃気楼）」（設計番号14310、総トン数120.3トン、速力47～50ノット）の配備、②領海域（距岸12マイル）の閉鎖海及び沿海水域には、80年代設計の艦ではあるが、使用武器種の異なる各種改装タイプの3級警備艦「スベトリャク（ホタル）」（設計番号10410、総トン数375トン、速

力 29 ノット)の配備、③経済水域エリアには、最新情報では<sup>108)</sup>、設計番号 1135.1 型の代替となる「アルマ」設計局設計の設計番号 22100「カアン(大洋)」<sup>109)</sup>型 1 級警備艦〔海軍仕様ではなく、史上初めての国境機関専用仕様、北極域航行可能な砕氷型ヘリ搭載(Ka-27 以上)船尾スロープ付き、排水量 2500 トン超〕(2012 年 2 月～3 月にゼレトリス造船所で起工、2015 年に完工予定)<sup>110)</sup>の配備。

新造警備艦艇の現状は、北方企画設計局設計の 2 級警備艦「ルバー」(総トン数 630 トン)を含めても、領海域及び沿海域までの警備艦艇の整備段階であり、海軍が遠洋域から近海域に退去したのに呼応するように、沿岸警備隊は近海域から沿海域及び沿岸域に退いている状況にある。しかし、FSB 国境総局沿岸警備局の分析調整局長アレクセイ・ボロシイ海員少将によれば<sup>111)</sup>、最適な沿岸警備システムは、十分な数のヘリ搭載艦の常時行動、並びに回転翼機及び固定翼機の飛行場での当直体制を前提とするとのことであり、ヘリ搭載艦及び航空機を活用した広域機動性の確保が重要視されている。

## おわりに

FSB 国境総局の沿岸警備隊は、軍事的海上警備から機動(諜報、防諜及び捜査)的海上警備へ移行し、これまでの海軍の領海防衛側から FSB のインテリジェンス側へ機能シフトしているが、2011 年 6 月にプロコチェフ FSB 国境総局長は沿岸警備隊の活動のあり方に関して次のように述べていた。原理的に重要なことは、沿岸警備隊は、先ず第一に、陸上から機動情報を受け取るという原理で構築されている<sup>112)</sup>。2011 年 8 月にトルファン FSB 国境総局沿岸警備局長は、これを、全ての決定は、さまざまな情報源から得られる各種情報及びデータの分析に基づき陸上で行われると述べていた<sup>113)</sup>。

沿岸警備隊で最大の艦艇勢力を持つ北東沿岸警備国境局ペトログロフスカ・カムヤトキ市監部(海陸統合監部)が 2011 年 12 月 1 日から廃止され<sup>114)</sup>、その艦艇勢力(国境警備分艦隊)が同沿岸警備国境局の直轄下に戻ったようである。詳細は今後明らかになるが、艦艇勢力に対するトップマネジメントのための指揮システムのシブ化及びこれによる人員削減が背景にあるようである。

これらは、FSB 及び国境総局機動機関からの機動情報のほか、陸上沿岸に張り巡らされた沿岸工学監視所網、艦艇及び航空機からの動的情報とい

った部内オンライン情報、並びに運輸省海運河川運輸庁の地域航行安全システム、連邦漁業庁の衛星漁業モニタリングシステム、その他 ESIMO 関係省庁及び外国関係機関からの部外オンライン情報の収集分析及び関係先との調整を地方レベルで行うシュエーションセンター機能を持つ沿岸警備系国境局の調整部及びこれを連邦レベルで統括する FSB 国境総局のシュエーション部というシュエーションセンターシステムを活用して海上事案の対処を陸上からトップマネジメントすることを意味し、これを可能にするだけの近代的な情報インフラの整備も進んできており、ソ連時代鉄のカーテンに代わる見えない無線バリアのカーテンが下されようとしている。

FSB 国境総局の 2 極体制の一翼を担う沿岸警備局を頂点とする組織であるロシア沿岸警備隊は、FSB 系陸員軍人の長のトップマネジメントの下で、FSB 航空機による広域機動性を確保しながら、インテリジェンス主導により陸上沿岸から沿海域までの警備を担う文字どおりの沿岸警備機関の様相を呈している。

---

1) Стратегия охраны государственной границы - главная тема сегодняшнего заседания СБ России / 30.09.2003 / [http://www.1tv.ru/owa/win/ort6\\_main.main?p\\_news\\_title\\_id=59557](http://www.1tv.ru/owa/win/ort6_main.main?p_news_title_id=59557) // С российской границы снимут колючую проволоку / 29.11.2000 / <http://www.allnews.ru/russia/2000/11/29/sovbez/> // Границе нужен новый замок / 29.11.2000 / <http://www.k141.ru/print/2000/11/29/granicenuzen.shtml> // Под Андреевским флагом зеленого цвета... / Альманах № 4 2006 г. / [http://www.geraldika.org/04\\_2006\\_29.htm](http://www.geraldika.org/04_2006_29.htm)

2) この組織改革に伴い、国家管理の完全化措置に関連した関係法令改正についての 2003 年 6 月 30 日付け第 86-FZ 号連邦法により 1995 年 4 月 3 日付け第 40-FZ 号連邦保安機関連邦法が改正され、連邦保安機関の活動方面についての第 8 条に「国境活動」及び「情報セキュリティ確保」が、並びに第 11.1 条「国境活動」及び第 11.2 条「情報セキュリティ確保」が新たに追加されている。

3) ФСБ перестраивает погранслужбу / 28.07.2003 / <http://www.dossie.ru/article.php?id=527>

4) Горячий рубеж / 28.05.2008 / [http://www.redstar.ru/2008/05/28\\_05/2\\_05.html](http://www.redstar.ru/2008/05/28_05/2_05.html)

5) Три в одном / 24.08.2004 / <http://www.rg.ru/2004/08/24/pogranichniki.html>

6) Погранслужба учится финансовому мышлению / 05.11.2004 / [http://nvo.ng.ru/forces/2004-11-05/3\\_border.html](http://nvo.ng.ru/forces/2004-11-05/3_border.html)

7) К границе XXI века / 04.02.2008 / <http://www.chekist.ru/article/2008>

8) Новая система охраны границы адекватна угрозам безопасности России / Альманах № 4 2006 г. (Журнал «Пограничник», № 9, 2005 г.) / [http://www.geraldika.org/04\\_2006\\_22.htm](http://www.geraldika.org/04_2006_22.htm)

9) Новый облик границы / 26.05.2007 /

[http://www.redstar.ru/2007/05/26\\_05/3\\_03.html](http://www.redstar.ru/2007/05/26_05/3_03.html) // К границе XXI века / 04.02.2008 / <http://www.chekist.ru/article/2008>

10) Береговая охрана ФСБ России наращивает корабельную группировку

перед Олимпиадой в Сочи / 02.06.2010 /  
<http://www.newsru.com/russia/02jun2010/flot.html>

11) Формирование нового облика границы продолжается / «Граница России» №19-20 (757) май 2010 г. / [http://granicarossii.info/ld/1/100\\_GR-19-20-2010.pdf](http://granicarossii.info/ld/1/100_GR-19-20-2010.pdf)

12) Генералов на границе стало в два раза меньше / 12.10.2011 /  
<http://kuban.kp.ru/daily/25769/2753408/>

13) 2003年初めのFPSの軍人数は、当時のトキ-FPS長官によれば、17万4000人であった。(Масштаб ответственности - в полтора экватора / 13.02.2003 /  
[http://www.redstar.ru/2003/02/13\\_02/1\\_01.html](http://www.redstar.ru/2003/02/13_02/1_01.html))

14) 2001年の会計検査院報告によれば、FPS海洋警備機関の艦船艇数は、728隻であった。(Отчет о результатах проверки использования средств федерального бюджета, выделенных в 2000 году на содержание морской охраны Федеральной пограничной службы Российской Федерации / Бюллетень Счетной палаты РФ № 6(42)/2001 / <http://www.ach.gov.ru/bulletins/2001-6.shtml>)

15) Погранслужба выходит из берегов / 17.05.2005 /  
<http://www.rg.ru/2005/05/17/ohrana.html>

16) В России создана береговая охрана / №26 (93)20 - 26 июля 2005 г. /  
[http://www.vpk-news.ru/article.asp?pr\\_sign=archive.2005.93.articles.geopolitics\\_01](http://www.vpk-news.ru/article.asp?pr_sign=archive.2005.93.articles.geopolitics_01)

17) Коллегия Погранслужбы ФСБ РФ рассмотрит проект развития береговой охраны до 2010 года / 22.02.2005 /

<http://www.itar-tass.com/level2.html?NewsID=1765832&PageNum=0> //

Бандформирования не прошли / №6 (172) 14 - 20 февраля 2007 г. /

[http://www.vpk-news.ru/article.asp?pr\\_sign=archive.2007.172.articles.names\\_01](http://www.vpk-news.ru/article.asp?pr_sign=archive.2007.172.articles.names_01)

18) Приложение 1 к Приказу ФСБ РФ от 28 августа 2007 г. N 432 "Об утверждении Перечня должностных лиц органов федеральной службы безопасности, уполномоченных принимать решение о возвращении в среду обитания безвозмездно изъятых водных биологических ресурсов либо об уничтожении водных биологических ресурсов и продуктов их переработки, включая икру"

19) Береговая охрана: два года в пути / 23.09.2009 /  
[http://www.redstar.ru/2009/09/23\\_09/2\\_05.html](http://www.redstar.ru/2009/09/23_09/2_05.html)

20) Граница / 28.05.2007 / <http://www.rg.ru/2007/05/28/patrushev.html>

21) トルファフ沿岸警備局長は沿岸警備系国境局の数を14と述べているが、これは77°ハズア共和国駐留のロシアFSB国境局をカウントしているものと思われる。(Береговая охрана: два года в пути / 23.09.2009 / [http://www.redstar.ru/2009/09/23\\_09/2\\_05.html](http://www.redstar.ru/2009/09/23_09/2_05.html))

22) Приказ ФСБ России от 11 января 2009 года N 1 «Об утверждении Административного регламента Федеральной службы безопасности Российской Федерации по исполнению государственной функции по обеспечению охраны морских биологических ресурсов и осуществлению государственного контроля в этой сфере»

23) Приказ ФСБ РФ от 16 июня 2006 г. N 285 г. "О пределах пограничной зоны на территории Таймырского (Долгано-Ненецкого) автономного округа"

24) Приказ ФСБ РФ 16 июня 2006 г. N 278 г. "О пределах пограничной зоны на территории Ямало-Ненецкого автономного округа"

25) ФСБ меняет пограничный режим / 30.07.2003 /  
[http://www.rg.ru/Anons/arc\\_2003/0730/5.shtm](http://www.rg.ru/Anons/arc_2003/0730/5.shtm)

26) Безопасность государства начинается с границы / № 21 (4093) 1 июня - 7 июня 2011 г. / <http://www.svrpu.ru/psv/4093/020.shtml>

- 
- 27) Мало кто знает, но в пограничной службе сейчас авиации нет / <http://rus.rpg7.org/index.php/topic/25> (27.09.2011 アクセス) // Крылья спецназа / Спецназ России N 5 (68) май 2002 г. / [http://www.specnaz.ru/archive/05\\_2002/7.htm](http://www.specnaz.ru/archive/05_2002/7.htm)
- 28) Авиация ФСБ: не количеством, а качеством / 08.07.2007 / <http://www.warandpeace.ru/ru/reports/view/12992/> // Без нас не обходится ни одна спецоперация... / «Граница России», №31, август, 2006 г. / <http://www.pogranec.ru/showthread.php?t=2510>
- 29) Суперцентр для ВВС будет в Воронеже / 27.08.2010 / <http://army-news.ru/2010/08/supercentr-vvs/>
- 30) Авиаторы закрепили знания на практике / № 32 (3794) 10-16 августа 2005 г. / <http://www.svrpu.ru/psv/3794/0020.shtml> // Единство неба и воды / 3.05.2006 / [http://troyka.iks.ru/kv/archive/03\\_05\\_2006/14.shtml](http://troyka.iks.ru/kv/archive/03_05_2006/14.shtml)
- 31) Безопасность государства начинается с границы / № 21 (4093) 1 июня - 7 июня 2011 г. / <http://www.svrpu.ru/psv/4093/020.shtml>
- 32) Совет руководителей органов безопасности и специальных служб государств – участников СНГ (СОРБ) / <http://www.cis.minsk.by/page.php?id=13826> (27.09.2011 アクセス) // Эффективнее использовать потенциал сотрудников / 28.05.2011 / <http://uv-granica.ru/?id=393>
- 33) Структура ФСБ: Центральный аппарат / <http://www.agentura.ru/dossier/russia/fsb/structure/> (13.12.2011 アクセス)
- 34) Мутация органов безопасности / 20.09.2007 / [http://www.intelros.ru/2007/09/20/mutacija\\_organov\\_bezopasnosti.html](http://www.intelros.ru/2007/09/20/mutacija_organov_bezopasnosti.html) // Что знает подполковник / 06.10.2008 / <http://www.novayagazeta.ru/data/2008/74/01.html>
- 35) 拙稿、海上保安大学校、50周年記念論文集、平成13年度、ロシア連邦連邦国境警備庁とその改革(その1)、47~48頁
- 36) Войска превращаются в органы / №48 за 2004 г. (17.12.2004) / <http://www.mn.ru/issue.php?2004-48-12>
- 37) Погрануправление ФСБ России по Магаданской области отбирает кандидатов на поступление в ведомственные вузы / 12.10.2011 / <http://severd.ru/news/show/?id=54805>
- 38) Необходим банк данных по перспективным офицерам / ВПК №48 (164)13 - 19 декабря 2006 г. / [http://www.vpk-news.ru/article.asp?pr\\_sign=archive.2006.164.articles.names\\_01](http://www.vpk-news.ru/article.asp?pr_sign=archive.2006.164.articles.names_01)
- 39) Новый облик границы / 26.05.2007 / [http://www.redstar.ru/2007/05/26\\_05/3\\_03.html](http://www.redstar.ru/2007/05/26_05/3_03.html)
- 40) ФСБ перестраивает погранслужбу / 29.07.2003 / <http://www.nomad.su/?a=5-200307290014>
- 41) Пограничные периодические печатные издания ФСБ / <http://ps.fsb.ru/smi/smi.htm> (111030 アクセス)
- 42) Лишь цвет фуражки неизменен / 04.07.2007 / [http://www.redstar.ru/2007/07/04\\_07/2\\_01.html](http://www.redstar.ru/2007/07/04_07/2_01.html)
- 43) Рыболовство под контролем / Май №5 (71) 2011 г. / <http://www.bolshoybusiness.ru/archive/43/1069/>
- 44) Пограничная деятельность: нацеленность - на результат / 18.06.2008 / <http://www.promreview.net/moskva/pogranichnaya-deyatelnost-natselennost-na-rezultat?page=0,4>

- 45) POLUS-ST 社製 Radiobarrier システム (Радиобарьер / <http://www.radiobarrier.ru/> (111102 アクセス))
- 46) Stilsoft 社製 (АПВТН «Видеолокатор-Дозор» / <http://stilsoft.ru/ru/catalog/videolokator-dozor> (111105 アクセス))
- 47) Gorizont 社製 (Мобильны патрульный комплекс «Патриот-Окапи» / <http://www.gorizontrostov.ru/> (111102 アクセス))
- 48) РЛОК «НЕВА-БТВ» / <http://www.mkis.su/tovar?gnt=3&gn=16> (101129 アクセス)
- 49) Граница РФ оснащается автоматизированными системами контроля - Погранслужба / Интерфакс-АВН 02.11.07 / <http://www.interpolitex.ru/>
- 50) Береговая охрана все видит / 12.09.09 / <http://www.dagpravda.ru/?com=materials&task=view&page=material&id=8170> // На восточном рубеже / 04.06.2008 / <http://www.zavtra.ru/cgi/veil/data/zavtra/08/759/41.html>
- 51) Полковник Дмитрий Королев: "Задачи остаются прежними" / № 43 (3908) 31 октября-6 ноября 2007 г. / <http://www.svrpu.ru/psv/3908/0050.shtml> // Основные направления оснащения пограничных органов современными средствами вооружения, военной и специальной техникой / 13.05.2011 / <http://federalbook.ru/news/analitics/13.05.2011.html>
- 52) 11 の調整部(課)は、本文の表に列挙された 13 の沿岸警備系国境局のうち、北極圏に面する地域を担当するが、内陸に位置する 2 つの内陸主体の国境局 (クワン州&チュメニ州国境局及びノヴォシビルスク州国境局) を除いた国境局に設置されているものと思われる。
- 53) Водный кордон: Береговая охрана Пограничной службы ФСБ России подвела итоги двухлетней работы / ФСБ за и против №3[06] 2009 г. / <http://www.osfsb.ru/File.ashx?ID=180>
- 54) Ф.А.Мошков, Морпогранохрана России: от Петра 1 до наших дней. Краткий исторический очерк. Выпуск второй доо. и изм. - М., 2005, ООО «Издательский Дом «Славянский Мир», С. 336-337.
- 55) Приказ Федеральной пограничной службы Российской Федерации от 14 июня 2002 года N 375 Об утверждении Положения об органах морской охраны Пограничной службы Российской Федерации
- 56) Морские рубежи под контролем / 15.04.2010 / <http://flot.com/nowadays/structure/baltic/marineline.htm>
- 57) BSRBCC - Baltic Sea Region Border Control Cooperation / <http://www.bsrbcc.org/> (111108 アクセス) // В Калининграде на совещание собрались представители пограничных ведомств стран Балтийского моря / 07.07.2010 / <http://www.rg.ru/2010/07/07/reg-szapad/granica-anons.html>
- 58) 運輸省海運河川運輸庁の地域航行安全システムの施設整備は 2004 年までは港湾利用税により賄われていたが、「2002 年～2010 年ロシア運輸システム近代化」連邦特別計画により約 10 億ルーブルが注ぎ込まれ、「2010 年～2015 年ロシア運輸システム近代化」連邦特別計画では約 50 億ルーブルが、更に予算外資金から 15 億ルーブルが投入されことになっている。こうした多額の資金投入により急速に航行安全情報システムの整備が進み、GMDSS、AIS 及び VHF 無線設備、インマルサット C 又はインマルサット D+ を利用した船舶モタリングシステム「ビクトリア」をベースにした LRIT、地域船舶位置通報システム (SSS) 及び全世界衛星測位システム (GLONASS/GPS)、コスパス・ササット衛星搜索救助システム、ローカル VTS の新設増強及び近代化、並びにこれら情報システムを統合した地域統合 VTS システムが各地域 (フィンランド湾東部地域、極東のビョートル大帝湾、アゾフ・黒海地域及びカスピ海地域) で構築され、ESIMO へのシステム統合が行われている。(Фактор риска / 11.12.2008 / <http://old.transportrussia.ru/2008-12-11/securite/risk.html>)

- 59) Завершен второй этап проекта РСБМ / 03.03.2006 / <http://www.press-release.ru/branches/transport/4407f414c9bcb/>
- 60) Союз четырёх стран / №11, 22.03.2001 / [http://www.iks.ru/~nkp/arhiv/html\\_arhiv/2001/11/11\\_news.html](http://www.iks.ru/~nkp/arhiv/html_arhiv/2001/11/11_news.html) // Что хорошо на Балтике, хорошо и на Тихом океане? / 03.07.2001 / <http://www.spbvedomosti.ru/2001/07/03/baltika.shtml#print>
- 61) Система спутникового мониторинга рыболовства. Современное состояние и перспективы развития / <http://www.wwf.ru/data/pub/marine/sputnik.pdf> (111107 アクセス)
- 62) Лучшая в мире система контроля была создана не благодаря, а вопреки / Ежедневная газета писателей России / № 27, Пятница, 6 июля 2001 г. / [http://www.litrossia.ru/litrossia/viewitem?item\\_id=14740](http://www.litrossia.ru/litrossia/viewitem?item_id=14740)
- 63) На страже законности - береговая охрана / 26.05.2005 / <http://www.fishres.ru/cgi-bin/news/print.cgi?num=08872>
- 64) О чем не ведает лосось... / 21.10.2010 / <http://skr.su/?div=gubved&id=24269>
- 65) У кого промысел как на ладони / № 47 (3861) 29 ноября-5 декабря 2006 г. / <http://www.svrpu.ru/psv/3861/0020.shtml>
- 66) Black Sea Littoral States Border/Coast Guard Cooperation Forum / <http://bscf-bcg.org/history.aspx> (101116 アクセス)
- 67) Постановление Правительства Российской Федерации от 10 августа 1998 г. N 919 "О федеральной целевой программе "Мировой океан"
- 68) 2009 年改正後の ESIMO 参加省庁は 16 省庁 (FSB のほか、調整機関の水象気象環境モニタリング庁、非常事態省、外務省、国防省、連邦警護庁、教育科学省、天然資源エコーロジー省、産業貿易省、通信マスコミ省、運輸省、経済発展省、エネルギー省、連邦宇宙庁、連邦漁業庁及びロシア科学アカデミー) である。(Постановление Правительства РФ от 29 декабря 2005 г. N 836 "Об утверждении Положения о единой государственной системе информации об обстановке в Мировом океане" // ЕСИМО / <http://www.esimo.ru/>)
- 69) На помощь пограничникам придут спутники / 06.04.2011 / <http://www.svrpu.ru/psv/4085/070.shtml>
- 70) Взаимодействие Росрыболовства с ФСБ России с учетом пилотного проекта по совершенствованию информационного взаимодействия между всеми контролирующими органами, ответственными за мониторинг и контроль рыболовства / <http://fish.gov.ru/activities/Documents/> (111012 アクセス)
- 71) Постановление Правительства РФ от 24 декабря 2008 г. № 994 "Об утверждении Положения об осуществлении государственного мониторинга водных биологических ресурсов и применении его данных"
- 72) Приказ Федерального агентства по рыболовству от 04 февраля 2009 г. № 79 «Об утверждении Устава Федерального государственного учреждения «Центр системы мониторинга рыболовства и связи»
- 73) На страже законности - береговая охрана / 26.05.2005 / <http://www.fishres.ru/cgi-bin/news/kpbynum.cgi?num=08872>
- 74) В модернизацию базы пограничных кораблей на Камчатке будет вложено до 9 млрд рублей / 28.09.2010 / <http://primamedia.biz/show/?id=65456>
- 75) Две военных пятилетки / 25.02.2011 / <http://lenta.ru/articles/2011/02/25/prog/>
- 76) Оборонно-промышленный комплекс (ОПК) / [http://www.vniiprim.ru/shop/cat\\_show.php?cat\\_id=29](http://www.vniiprim.ru/shop/cat_show.php?cat_id=29) (27.06.11 アクセス)
- 77) ロシア経済の現状と今後の展望、2010 年 8 月 27 日、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング /

[http://www.murc.jp/report\\_pdf/20100830\\_175507\\_0419629.pdf](http://www.murc.jp/report_pdf/20100830_175507_0419629.pdf) // 世界経済の潮流  
2010年II第2章2の7財政危機(98年)平成22年11月内閣府 /

[http://www5.cao.go.jp/j-j/sekai\\_chouryuu/sa10-02/s2-10-2-2/s2-10-2-2-2.html](http://www5.cao.go.jp/j-j/sekai_chouryuu/sa10-02/s2-10-2-2/s2-10-2-2-2.html)

78) Мы будем строить корабли / 30.01.2006 /  
<http://www.kadis.ru/daily/?id=25821>)

79) Андрей Фролов. Будущее российских вооружений / Индекс Безопасности  
№1, Весна 2011 г. /

<http://pircenter.org/data/publications/sirus1-11/Analysis-Frolov.pdf>

80) Развитие флота - задача государственная / 29.07.2006 /  
[http://www.redstar.ru/2006/07/29\\_07/1\\_03.html](http://www.redstar.ru/2006/07/29_07/1_03.html)

81) Мы должны сохранить наши "живые" корабли / Страна.ru, апрель 2002 г.  
// <http://shipbuilding.ru/rus/interviews/kuroedov/> // Развитие флота - задача  
государственная / 29.07.2006 / [http://www.redstar.ru/2006/07/29\\_07/1\\_03.html](http://www.redstar.ru/2006/07/29_07/1_03.html) //  
08.10.2010 / The Voice of Russia / <http://japanese.ruvr.ru/2010/10/08/24844075.html>

82) Морским судам быть?.. / 01.11.2006 //  
[http://www.nvspb.ru/stories/morskim\\_sudam\\_buetmz==id==57997](http://www.nvspb.ru/stories/morskim_sudam_buetmz==id==57997)

83) Контуры морской стратегии России / 22.09.2004 /  
[http://www.redstar.ru/2004/09/22\\_09/2\\_01.html](http://www.redstar.ru/2004/09/22_09/2_01.html)

84) МВМС-2011. Чего ждать флоту / 5.07.2011 /  
<http://rus.ruvr.ru/2011/07/05/52792158.html>

85) Альтернатива останемся без боеспособного флота / 09.03.2011 /  
<http://vpk-news.ru/articles/7223>

86) Куда идет надводный флот? / № 29 (345) за 28 июля 2010 г. /  
<http://vpk-news.ru/articles/6613>

87) Quo vadis, российский флот? / Журнал «Экспорт вооружений» № 2  
(март-апрель) 2003 г. // <http://makeyev.msk.ru/pub/msys/2003/QuoVadis.html>

88) Смена морской доктрины дорого обойдется бюджету / 03.02.2006 /  
[http://www.ng.ru/economics/2006-02-03/3\\_fregaty.html](http://www.ng.ru/economics/2006-02-03/3_fregaty.html) // Исполнение  
государственного оборонного заказа России в 2009 году / журунал «Экспорт  
вооружений», март-апрель 2010 г. /  
<http://www.periscope2.ru/pdf/100630-frolov.pdf>

89) Альтернатива останемся без боеспособного флота / 09.03.2011 /  
<http://vpk-news.ru/articles/7223> )

90) Новые старые фрегаты / 28.06.2011 /  
<http://rus.ruvr.ru/2011/06/28/52466196.html>

91) Около 100 кораблей и катеров различных модификаций принято на  
вооружение Пограничной службой ФСБ России - Валерий Панченко /  
30.10.2007 / <http://portnews.ru/news/31697/>

92) Реформа морпогранохраны плывет на ржавом корабле / 04.02.2005 /  
[http://nvo.ng.ru/forces/2005-02-04/3\\_reform.html](http://nvo.ng.ru/forces/2005-02-04/3_reform.html)

93) Судостроительная промышленность / 11.06.2002. Федеральная  
пограничная служба РФ и ОАО "Концерн средне- и малотоннажного  
кораблестроения" подписали генеральное соглашение о сотрудничестве. /  
27.12.2002. По словам гендиректора ОАО "Прибалтийский судостроительный  
завод "Янтарь" (г. Калининград) Николая Волова /  
<http://ia.vpk.ru/vpkrus/otrasli/ship.htm>

94) Граница меняет замки / 02.06.2010 /  
<http://www.rg.ru/2010/06/02/pronichev.html>

95) У погранслужбы сложная ситуация с новыми кораблями / 27.05.2011 /

[http://www.i-mash.ru/news/nov\\_otrasl/14078-u-pogransluzhby-slozhnaja-situacija-s-novymi.html](http://www.i-mash.ru/news/nov_otrasl/14078-u-pogransluzhby-slozhnaja-situacija-s-novymi.html)

96) FSB 沿岸警備隊が採用を検討しているオーストリア「Schiebel」社製の無人ヘリ「S-100 Camcopter」の離着艦試験が新型警備艦「ルベ」艦上で行われている。(На Черном море успешно проведены морские испытания БЛА вертолетного типа / 29.11.2011 / [http://flotprom.ru/news/index.php?ELEMENT\\_ID=98194](http://flotprom.ru/news/index.php?ELEMENT_ID=98194))

97) Пограничники готовы к Олимпиаде / 27.06.2011 / <http://www.rg.ru/2011/06/27/reg-kuban/pogranslujba.html>

98) 拙稿、海上保安大学校、50周年記念論文集、平成13年度、ロシア連邦連邦国境警備庁とその改革(その1)、50頁

99) Государственная граница РФ: защита и охрана / №63 2008 г. / [http://www.sovetnikprezidenta.ru/63/3\\_bezopas.html](http://www.sovetnikprezidenta.ru/63/3_bezopas.html)

100) КСМК: передовые технологии – на службе флоту / 04.09.2003 / <http://www.kcmk.ru/publications/12/default.htm>

101) К берегам Шпицбергена / Газета Свереного флота «На страже Заполярья» № 72(18497) 20 ноября 2010 / [http://www.redstar.ru/regions/2010/11/20\\_11/201110-na-s-z.pdf](http://www.redstar.ru/regions/2010/11/20_11/201110-na-s-z.pdf)

102) 拙稿、ロシア沿岸警備隊(その1)、海上保安大学校研究報告、第54巻第2号(平成21年度)、64頁、65頁及び74頁

103) "Спрут" задушит браконьеров / 07.06.2002 / [http://nvo.ng.ru/armament/2002-06-07/6\\_sprut.html](http://nvo.ng.ru/armament/2002-06-07/6_sprut.html)

104) Федеральная целевая программа "Повышение эффективности использования и развитие ресурсного потенциала рыбохозяйственного комплекса в 2009 - 2014 годах" (утв. постановлением Правительства РФ от 12 августа 2008 г. N 606) (с изменениями от 5 июля 2010 г.)

105) この変更は、「ブルガ」の方が、「スプルト」よりも総トン数が大きいにもかかわらず、2隻の建造合価が僅かに安価で、国産へのこだわりを見せているFSB国境総局にとって、「スプルト」はドイツ製ディーゼル・エレクトリック主機を国産に変更できないためであったと思われる。

106) 総トン数(満載1238ト、長さ53.7m、幅10.72m、喫水4.31m、速力12.6ノット、航続距離7000マイル、航海日数25日、乗組員25名。(Малые противолодочные корабли Проект 503 / <http://russian-ships.info/razvedka/503.htm> (11.11.2011アクセス)

107) На страже морских рубежей / №12 декабрь 2010 г. / <http://www.oborona.ru/1437/1440/index.shtml?id=3957#>

108) ФСБ заказала в Зеленодольске фрегат для охраны шельфа / 29.12.2011 / <http://www.business-gazeta.ru/article/52037/>

109) 設計番号22100は、設計番号22460型「ルベ」の対抗馬であった「アルマス」設計局設計の700ト警備艦に最初付けられていた設計番号であった。(Понадобились более эффективные корабли / 28.12.2011 / <http://vpk-news.ru/articles/8508>)

110) Пограничным кораблям быть! / Журнал «Пограничник» Февраль 2011 г., с. 25.

111) Уверенным курсом к намеченным целям / Журнал «Пограничник» Июль 2010 г., с.3-4.

112) Посещение пограничного патрульного судна «Командор» / 30.06.2011 / <http://президент.рф/news/11807>

113) Береговая охрана - структура правоохранительная / № 30 (4102) 3 августа - 9 августа 2011 г. / <http://www.svrpu.ru/psv/4102/130.shtml>

114) Информацию от капитанов ждут по новому адресу / 09.12.2011 / <http://fishnews.ru/news/17310>